

入学おめでとうございます

フィールドという“宝”を基盤とした教育・研究を実践



新学長 江口 文陽

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東京農業大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。

東京農大は、1891年に徳川育英会を母体として日本で初めて設立された私立の農学校です。建学の祖 榎本武揚先生は、農学教育とは、理論と実践が備わって真の本物となり、産学との実りある連携が国や人への幸福を導くことを提唱されました。初代学長横井時敬先生の名言「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」は、榎本学祖の提唱を実践し、行動によって発せられた「農学の源」です。

その源は、北から南まで日本各地に設置されたキャンパスとフィールドであり、他大学にはない「誇るべき宝」です。特に農場などのフィールドに農機を核にして、学生と教職員が「フィールドを学び、フィールドで暮らす」ことで多くの新発見を生み出すこと、そして東京農大から育つ学生は、きつと令和時代の世界を牽引する人材となります。

本学の持つフィールドを活かし、「人物を世界に植える」というビジョンこそが確固たる農大ブランドを構築し、強靱な組織力を持った大学になると確信しています。

現在本学は、学生約13000人、教職員約700人を擁し、世田谷・厚木・北海道オホーツクキャンパスを有しています。それぞれの地域において特色ある総合農学の教育・研究が展開されています。ところで農学とは、いかなる学問でしょうか？

本学に入学された皆さんは既に承知しているはずですが、改めて農学を学ぶということについてお話しします。農学とは、山の頂上から海洋までのフィールドに展開される農林水産業とその関連分野、環境や生活と深く関わる領域であり、自然科学、社会科学のみならぎそれ以外の幅広い分野をカバーする総合的な学問なのです。すなわち、私たちの日常生活と最も密着した学問であり、世界が目指す持続可能な開発目標SDGsに貢献します。まさに「人間が生きていくための」「生活環境をより豊かにするための」「食料問題や飢餓をなくすための」「平和な世界を創出するための」など全ての人が何よりも先に考える実学分野なのです。新入生の皆さんは、「豊かな生活」「命を守る」「地球環境を守る」ための最先端科学である「農学」を学ぶスタート地点に立ったのです。

私が37年前に東京農大に入学したのは、この機能性研究を行うためです。恩師は、「この機能性研究がしたいなら品種と栽培を学びなさい！それが農学研究の原点だ！」と言われました。すなわち成果を早く導き出すには、基礎と広い視野が必要という教えでした。「木を見て森を見ず」という言葉があるように農大生は、広い視野で物事を見るこ

恥は成長のはじまり

と、物事の本質を見失わないために、観察力を高めることが必要です。東京農大は机上の学問ではなく、真の実学を学ぶ大学といったことはこの事実からも証明できるのである。皆さん、散歩の機会があれば、葉の色や厚みの違い、川のせせらぎの違いなどにも神経を研ぎ澄まし、五感を感じてく世界で活躍する人材を目指してください。

間が生きていくための「生活環境をより豊かにするための」「食料問題や飢餓をなくすための」「平和な世界を創出するための」など全ての人が何よりも先に考える実学分野なのです。新入生の皆さんは、「豊かな生活」「命を守る」「地球環境を守る」ための最先端科学である「農学」を学ぶスタート地点に立ったのです。

東京農大で学ぶ同志として力を合わせて「農大フィールド」で皆さんの「夢の実現」に向かって躍動してください。農大の教職員、校友、さらには農大と深い絆で結ばれた企業や人々が皆さんを温かく見守っています。大学の持つ知的資源やフィールドを活用して五感で学び、得られた情報を心から応援いたします。



学生たちと歓談する江口新学長（中央右）



桑山 岳人 副学長
農学部 動物科学科

重くも大し われらが使命

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。東京農業大学は、皆さんの潜在能力を引き出すことを手助けします。新しい

重くも大し
われらが使命

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この一年間、私達は今まで経験したことのない日々を過ごして来ましたが、4月からも以前とは違う世界が続くかもしれません。しかし、私達は経験や知識を積み重ね、途中、立ち止まっても前に進んでいきます。農大で学ぶ新しい農学はその前進を助け、皆さんを勇気づけていくでしょう。



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この一年間、私達は今まで経験したことのない日々を過ごして来ましたが、4月からも以前とは違う世界が続くかもしれません。しかし、私達は経験や知識を積み重ね、途中、立ち止まっても前に進んでいきます。農大で学ぶ新しい農学はその前進を助け、皆さんを勇気づけていくでしょう。

新しい農学は 前進を助ける

上原 万里子 副学長
応用生物科学科
食品安全健康学科

「科学的発想で「真理を探り」「科学の力に自然を活かし」一緒に地球の未来を明るくものにしていきたいと思います。」「重くも大しわれらが使命」です。

千葉 晋 副学長
生物産業学部 海洋水産学科

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。当たり前のことですが、1日は24時間といっ



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんが学ぶ「農学は私たち人類にとってなくてはならない学問であり、世界が目指す持続可能な開発目標SDGsへの大いなる貢献が期待されています。東京農業大学での4年間のあらゆる学び、挑戦、出会いが皆さんの将来にとって、大きな糧となりますよう祈念しております。

学び、挑戦、出会いを 大きな糧に

上岡 美保 副学長
国際食料情報学部
国際食農科学科

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。これから皆さんが学ぶ「農学は私たち人類にとってなくてはならない学問であり、世界が目指す持続可能な開発目標SDGsへの大いなる貢献が期待されています。東京農業大学での4年間のあらゆる学び、挑戦、出会いが皆さんの将来にとって、大きな糧となりますよう祈念しております。



たように、時間は誰にでも平等に流れています。でも、大学生としての4年間は、これまでの4年間とも、卒業後の4年間とも違う、きつと人生の中で大きな意味をもつ時間になるでしょう。ぜひ、農大で実り多き充実した4年間を過ごしてください。



東京農業大学
世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

4月・7月・11月 発行

編集 東京農業大学学長室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
<http://www.nodai.ac.jp>

- 学部長あいさつ／「研究室から」安心・安全なきのこを... ②
「農研ニユース」生物実験教材「カラフル」ザリガニ... ③
「活躍する卒業生」ワクワクする気持ちで全力投球！... ③
ジャム作りで6次産業化を学ぶ... ③
卒業おめでとう... ④
高野克己 前学長メッセージ... ④

SNSでも
情報発信！

東京農大はソーシャルネットワークを通じて大学の情報をお届けしています



学部長あいさつ

「感じる」アンテナ
高く張ろう馬場 正
農学部長（農学科）大学では沢山のことを「知る」
ことができます。同時に、いろ
ろなことを「感じる」ことが大切
です。「感じる」ことができた知
識は、しっかり身につきます。農
学部には、植物、動物、昆虫、微
生物など「感じる」ことができる
無限の宝庫が隠されています。皆
さんの中のアンテナを高く張っ
て、「感じる」ものを見つけてく
ださい。厚木キャンパスへようこ
そ。「科学リテラシー」
身につけよう坂田 洋一
生命科学部長
（バイオサイエンス学科）農大130年の歴史の中で、生
命科学部は4年前に誕生したフレ
ッシュな学部です。最先端分析機
器を始めとする充実した研究環境
の下、世界に伍する先端生命科学
研究を通じた学生教育を展開して
います。皆さんが4年間の学びを
通じて、知識と証拠に基づいて科
学的に思考し行動できる「科学リ
テラシー」を身につけ、社会へと
羽ばたくことを期待します。これまでの「常識」
疑ってみよう高柳 長直
国際食料情報学部長
（食料環境経済学科）大学は、皆さんの視野を広げ、
正解のわからない問題を探索する
ところです。高校までで学んだこ
とや「常識」を、本当に正しいの
か疑ってみてください。また、大
学は個人の社会的なつながりの基
盤を築く場でもあります。そのた
めにさまざまな教育プログラムや
活動を用意していますので、積極
的な参加を期待しております。新たな未来への
ページ開こう山本 祐司
応用生物科学部長
（農芸化学科）新入生の皆さま、ご入学おめで
とうございます。東京農業大学で
は、基礎的な勉強とそれを応用す
る卒業論文研究までの学びの場
中で、多くのことを経験してもら
えるよう、これから過ごす4年
間、教職員一同でサポートしてい
きます。決して躊躇せず、チャレ
ンジする気持ちを大切に、そして
新たな未来へのページを開いて
いきましょう。興味を持って
行動しよう大林 宏也
地域環境科学部長
（森林総合科学科）皆さんご入学おめでとうござい
ます。大学での学びは教室だけで
なく実験実習室や屋外での実習な
どいろいろあり、課外活動を含め
てみなさんにとって新しいことが
たくさんあります。興味を持って
行動してみてください。ウィルス
とも共存して一緒に農大で学べる
ことを嬉しく思います。東京農業
大学はあなたの学びを応援しま
す。自然を通して
未来を探し出そう吉田 穂積
生物産業学部長
（北方圏農学科）入学おめでとうございます。昨
年1年は、私達にとり大変な年で
した。これから私達がこの試練を
克服するためには今までとは違っ
た意識になる必要があります。オ
ホーックキャンパスの周りには人
間が自由に操作することのできな
い自然が広がっています。その中
で生物産業学を通して未来の自分
を探し出してくれることを期待し
ています。研究室
から東京農業大学大学院
農学研究科 農学専攻
博士前期課程2年
植物病理学研究室

服部 雄斗さん

きのこの細菌病を有用微生物で防除することを、エノ
キタケを通して探り続けている服部さん。テーマに着目
したのは学部生の時で、まず広く勉強した。その学びを
さらに発展させるために進んだ大学院生としての日々、
そして将来への思いを聞いた。服部さんは「エノキタケに発
生する細菌病の生物防除」を研
究している。テーマに取り掛か
ったのは学部生の時。現在はそ
れを発展させた試験に取り組
む。「エノキタケに発生するエ
ノキタケ黒腐細菌病は、病原細
菌 *Pseudomonas tolaasii* によ
って引き起こされます。エノキ
タケ黒腐細菌病に対して極め
て高い発病抑制効果を有する
菌 *Pseudomonas tolaasii* が悪くなることはない。教員同士
まで時間がかりました」
そんな中でも、研究室の雰囲気
が研究のモチベーションを安心・安全なきのこの生産
——その期待に応えたいの仲が良く、学生にもそれが伝わ
り院生とも学部生とも良好な関係
を築けていると、服部さんは話
す。「植物病理学研究室では、教
員ごとでゼミが分かれておらず、
異なる実験テーマの人とも意見交
換をすることが出来ます。教員の
方からの意見もたくさんいただ
けるので、研究に対する視野を広く
保つことができています」
農学部としての長い歴史、圃場
での実地作業を経験できる点、そ
れらが将来就職時の貴重な経験値
になる——こうした思いから東京
農大への進学を決めた服部さん。
学部生1年次、必須科目だった植物病理学を聴講し
て植物の病気に興
味を持った。2年
次には植物病原微
生物学などを履修
して知識を深め、
3年次から植物病
理学研究室に所属
し、研究室に通う
生活が始まった。
そこでお世話にな
った院生の先輩の
存在が、大学院へ
進学した理由とし
て大きいという。「3年生の時に
同じ実験班として
熱心に指導してい
ただき、その研究
の面白さや不思議
なところ、大学院
生はどんな存在なのかなどをたく
さん話してくださいました。ま
た、卒業研究として取り組んでい
た実験の結果が興味深くて、大学
院の2年間を通してさらに研究を
発展させたいと思い、大学院進学
を決めました」
これまで一番の思い出は、修
方々に感謝してもらえませんか」周りの人たちの姿見て
モチベーション保つ今後の進路について服部さんは
「きのこの生産に携わる仕事に就
きます」と明言する。「安心・安
全なきのこが、どれだけ消費者の
方から望まれているかを感じてい
ます。生産側として私自身も期待
に応えたいと思い、きのこの会社
に就職することにしました」
最後に、学部生の皆さんへのメ
ッセージを語ってもらった。「大
学院は）興味がある研究をじっく
りと時間をかけて行えるところ
が、なにより良いです。また、学会発表や論文を投稿する機会を通
して、資料作りや物事を正確に伝
える能力が格段に上がります」
東京農大は大学院に進む人が少
ないイメージがある点について、
服部さんは「だからこそ——」と
強調する。
「同期が少ないのはたしかに少
し寂しいかもしれませんが、少な
い人数だからこそ、すごく仲良
くなり、周りの人たちが頑張っ
ている姿を見ることが、自分のモチ
ベーションも保てます」

メンバーと語らう服部さん（右）

農生研ニュース

教職課程 武田 晃治 教授

動物色素の生物実験教材

カラフルザリガニ

テレビ番組で研究の紹介・解説も

お寿司や焼き魚など、食材として身近なサケは、本来白身魚である。なぜサケの切り身やイクラはオレンジ色をしているのだろうか？じつは、サケの食物連鎖を見てみるとその答えがわかる。不思議なことにサケは、自らこのオレンジ色のもととなる色素を作ることができない。サケの餌となるオキアミなどに含まれるアスタキサンチンという色素が、サケの筋肉やイクラに蓄積しているのである。中学・高等学校では、植物色素に着目した実験は多いのだが、意外なことに、動物色素に着目した



赤いアメリカザリガニの色素は同じアスタキサンチンである。面白いことにその色素含有量を与えることで、青やピンク色になる個体を発見した。青個体の脱皮殻を茹でることでピンク色に変色することから、両個体の違いは、生きた青黒いエビを茹でると色が赤く変化するよう、色素結合タンパク質の有無によるものと示唆された。そこで現在、その要因遺伝子やタンパク質に着目した研究や、その知見をいかした発展型の生物実験教材の開発に取り組んでいる。

「生物の色」に着目した実験教材や授業の開発を行い、その過程で得られた知見をいかし、教員を目指す学生達のみならず、小・中・高校生や教諭、一般の方をも対象に授業を行っている。最近では教員免許状更新講習をはじめ、経堂図書館とのコラボイベント、テレビ



「じゅん散歩」に登場した理科教育研究室の学生たちと武田教授(右端)

国際食農科学科

ジャム作りで6次産業化を学ぶ

「商品作りの面白さ、利益生み出す難しさ」体感

東京農大生によって作られたトマトジャムとブルーベリージャムの販売が開始された。生産したのは2017年に新設された国際食農科学科の2年次生。生産(1次産業)、加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)を融合させ、新たな価値を生み出す6次産業化について学ぶ「食農専門実習・食農専門演習」科目内の取り組みとして商品生産する。

食農専門実習では、原料となる加工用トマトおよび、ラベッタイ系統の品種を中心に18品種のブルーベリーを伊勢原農場で生産、管理、収穫し、それらを世田谷キャンパスに持ち帰って加工実習として商品生産する。



パッケージも学生たちがデザインした食農ジャム。「トマト」(左)と「ブルーベリー」



ブルーベリーを手摘みし収穫する学生たち

食農専門演習では、商品ラベルのデザイン考案もやり、プレゼンテーションを経て決定。また、原価計算を踏まえた販売価格を設定する。18年、19年には販売実習として収穫祭で販売を行った。

「利益を出す面白さと難しさを学べる」と、学生からも人気の科目になっている。20年は収穫祭は中止となったが、世田谷代田キャンパスにて開催される朝市で、学生による販売実習を計画中である。

国産ナチュラルチーズシンポジウム

価値を作り伝えていくチーズ職人と酪農家

東京農業大学世田谷代田キャンパスで2月25日、「国産ナチュラルチーズシンポジウム2021」が開催された。新型コロナウイルス対策のために人数規制をした会場には、およそ20人が来場。オンラインで50人以上が参加した。



右から原田英男さん、柴田千代さん、山川将弘さん、安田翔吾さん

シンポジウム前半は、日本一のチーズ職人の一人として知られる「チーズ工房【千】son」の柴田千代さんと、放牧酪農にこだわる森林ノ牧場を運営する山川将弘さん、チーズ工房那須の森で工房長を務める安田翔吾さんによる事例報告が行われた。後半には、一般財団法人畜産環境整備機構副理事

活躍する卒業生

株式会社CRISP勤務／ヨーグルト研究者
阿部 花映 (2011年 生物応用化学科卒業)



阿部花映さんは、カスタムサラダ専門店を展開する株式会社CRISP勤務の傍ら、月に1回、東京の浅草橋にあるゲストハウス内に「カスタムできてたっぷり食べられる」ヨーグルト専門店 Dear Mechnikovを開く「ヨーグルト研究者」としても活動している。中学生の時にハマったのがきっかけと話す阿部さんを突き進ませるのは、「自分の中にあるワクワクする気持ち」だ。

ワクワクする気持ちに従い突き進む

いことを話したところ、東京農大を勧められた。子供のころから興味があった食・農・環境に関係するさまざまな授業があり、他学科聴講もできることに魅力を感じた。しかし、最終的な決め手は研究室だったという。「食料資源理化学研究室に所属していたのですが、実は受験をする前からこの研究室に入りたいと考えていました。大学選びというより実際には研究室選びで、そこから逆算して農大を選んだという感じです」

「遊びは学びの根源」で全力投球！



食べ応えあるDear Mechnikovのヨーグルト「本願寺」(左)と「天龍寺」。各750円(どちらもシーズンメニュー)

経験は、ヨーグルト研究者としての活動でも大きな強みになっていると話す。「信頼性のある情報を見極めるために、農大で学んだことは自分を支える指針。OB・OGとのつながりが深いのも本当にいい。今も多くの先輩・後輩・先生方に支えられています」

「遊びにも全力投球してください！遊びは学びの根源です」。これが阿部さんから在学生へのメッセージだ。

今回のシンポジウムは「ミルクで地域をデザインする」がテーマ。チーズ職人として活躍する柴田さんは、「自然災害により、辛い時もあったが、多くの支えがあり続けることができた。おいしいチーズを届けること、チーズの物語を伝えていくことで恩返しをしていきたい」と語った。柴田さんは、子供たちを集めた寺子屋の開催、地域特産物の詰め合わせギフトセットの開発など、地域を巻き込んだ活動を続けている。

価値あるものを作り出し、価値あるものを伝えていくこと、そして、不可能を可能にしていく仕事の面白さを、三者三様、「ミルク」をキーワードに語り合うシンポジウムとなった。

3151人に学位記授与

卒業おめでとう

卒業シーズンを迎えた。東京農業大学でも、3月17日に北海道オホーツクキャンパス、同20日に世田谷キャンパス、翌21日に厚木キャンパスで学位記の授与が行われた。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症により、授業や実習は中止となり、前学期は全て遠隔授業となった。後学期から実験・実習を中心に、学生たちにも大きな負担を強いることになった。

告辞・祝辞をオンライン配信

今年、新たな試みとして導入されたオンライン配信では、大澤理事長による祝辞と高野学長による告辞が動画配信された。高野学長は、「今年一年、満足いく状況ではな

た。しかし、困難を乗り越え、3151人が卒業の日を迎えた。



学位記授与の様子をオンライン配信＝厚木キャンパスで

「充実した研究活動ができた」

本来であれば、卒業生代表として答辞を読む予定だった高橋晶さん(森林総合科学科4年)も、研究室で学位記を受け取った。4年間を共にした友人たちと話す姿はマス

目にも驚き、卒業生代表として答辞を読む予定だった高橋晶さん(森林総合科学科4年)も、研究室で学位記を受け取った。4年間を共にした友人たちと話す姿はマス

目にも驚き、卒業生代表として答辞を読む予定だった高橋晶さん(森林総合科学科4年)も、研究室で学位記を受け取った。4年間を共にした友人たちと話す姿はマス



「満足できない気持ち、大切に道を切り開いて」



卒業生代表の高橋晶さん。教室で答辞を読んだ＝世田谷キャンパスで

卒業生代表の高橋晶さん。教室で答辞を読んだ＝世田谷キャンパスで

知識を知恵に変換し自信持って挑戦を

高野 克己 前学長メッセージ

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。

新たなスタートに喜びと期待、少しの不安を抱いたすべての方へ、お祝いの言葉を贈ります。

また、私も3月をもちまして8年間の任期を終え、東京農業大学の学長を卒業しました。1974年(昭和49)に農芸化学科に入学し、昭和、平成、令和の時代を東京農大で過ごしました。入学当時、キャンパスは世田谷のみで、建物も解体が進む2号館(研究棟)と、現在のアカデミアセ

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。



高野 克己 前学長

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。

春の大学は、博士、修士、学士の学位を取得し、キャンパスから巣立つ卒業生と、入学試験を突破し大学進学を決めた新入生と、在学が交差する不思議な空間となります。

〈特別展〉開催

—1年の延期を経て

両極の馬具
日本人の馬あしらい

昨年の本紙第88号の本欄で開催告知した「〈特別展〉両極の馬具——日本人の馬あしらい」は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を1年延期し、本年、改めて開催することになった。隣接する「馬事公苑」で開催予定の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技の期間と重なるよう、会期を令和3(2021)年4月23日(金)～9月5日(日)としている。

道具は文化を象徴するものであると言われる。その中でも馬具という特殊な道具からは、その地域の文化形態の複雑性や特殊性を顕著に浮かび上がらせることができる。馬の使役方法の違いが、そのまま文化の差異であるとも言えるからである。また馬具の変遷は、時代が求める馬のありようの移り変わりでもある。方や労働する役畜の力を増幅させ、方や富と権力を象徴する装身具として両極に展開していったのである。やがて、娯楽やスポーツ以外の馬利用が減少すると共に、数多くの道具が姿を消していった。

この展示では、主に江戸時代から昭和初期頃までの和式馬具を対象に、二方向に発展した日本の馬具を、人と馬の関係にも着目して展示するものである。隣接する馬事公苑に観覧に訪れる海外のお客様にも、洋式馬術とは異なる日本の馬文化の特徴を、端的にお見せできる機会になるであろう。

